

避難タワー最上階の整備を

環境整備は必要と考える

問 避難タワーの整備で、一時避難場所としての最上階の整備が必要ではないか。

答 徳廣 情報防災課長

町内に設置している6基のタワーについては、いずれも屋根を有した施設となっており、一定の風雨は防げるようになっている。だが、自然高台の一時避難場所についてはできていない。昨年度は、避難所の環境整備事業により避難所における整備

問 避難場所の整備について、地区からの要望は、これまでどのくらいあったか。

答 徳廣 情報防災課長

一時避難場所に関連する地区要望については、今年度、避難小屋の整備や倉庫の設置等、7地区8カ所の要望があった。補助事業で対応できるものについては、今年度の予算の範囲で整備していきたいと考えている。

問 夏や冬の厳しい気象状況の折を想定し、その対策、対応の検討はできないか

答 徳廣 情報防災課長

季節ごとの整備には至っていないのが現状。暑さ、寒さ対策にすべて対応できる状況でもないが、どういったものが有効で優先順位が高いのかを協議、話し合いをしながら、整備は進めなければならぬと思っている。

問 倒壊の危険性のあるブロック塀の、現時点での改修率は。また、その推進方策としてエリア改修はできないか。

答 徳廣 情報防災課長

昨年までの、黒潮町ブロック塀等対策推進事業による補助金交付件数は72件。ただ、危険とされるブロック塀の数は、現状では把握できておらず、改修率の算定は困難な状況。エリアや路線を絞り、重点的な取り組みの検討

はしているが、個々の対応が異なるため、現状ではエリア改修等の取り組みはできていないが、大阪でのブロック塀倒壊による事故以降、相談件数は大幅に増加しており、実施工件数も増えている。現状としては申請件数に対応できる、国、県、町の予算の確保を図り、実施工件数を伸ばしたいと考えている。

問 近年、異常気象による線状降水帯と呼ばれる局地的な豪雨で、全国各地で大規模な水害が頻発している。町内の河川には葦(よし)等の雑草が大繁殖しており、水害の要因と成りかねない。早期の排除、整備が必要だ。

答 金子 まちづくり課長

近年、異常気象による豪雨で甚大な災害が頻発している。河川の水位上昇により、護岸決壊などで家屋が浸水する事態や護岸兼用となっている町道が浸水し、



ヨシや雑草が大繁殖した河川。すぐそばにはビニールハウスが(蜷川)

孤立した所もあった。葦等の雑草や堆積土(たいせきど)については、毎年、各地域から取り除きの要望が挙がっているが、町内の主要河川のほとんどが県管理河川で、幡多土木事務所へ現場確認もしながら取り除きの要望をしている。

昨年度も県管理河川で町内5カ所の除去を行っていた。今後も、町管理は勿論、県管理についても要望を行ない、対応していく。

【その他の質問】

・消費税増税に伴う町の対応、対策について



あさの しゅういち 議員 浅野 修一